

図書館報

聖隷クリストファー大学

第13号 2015.4

📖 図書館長の挨拶（鮫島道和）.....	1	📖 この一冊	5
📖 私と本（中村京子）.....	3	📖 メディカルオンラインの利用方法	9
📖 学生は手記を手に、夢に挑戦する（小田原悦子）・・	4	📖 News	12



図書館長の挨拶

図書館長

看護学部看護学科 教授 鮫島 道和

図書館が1号館から5号館に移ったのは、2013年2月でした。それからおよそ2年が過ぎようとしています。この2年間を含めて過去5年間の図書館総利用者数は、下記の表のようになります。

聖隷クリストファー大学図書館総利用者数

2010年度	92,121
2011年度	89,858
2012年度	64,922
2013年度	59,267
2014年度※	51,575 (年間12ヶ月分に換算すると 約69,000名)

※4月～12月の
9ヶ月分

図書館が、まだ1号館にあった2010年から2012年にかけて、図書館の利用者数は大きく減少していました。図書館が1号館から5号館に移ることが決まった時、私は図書館の場所が、教室の多くが置かれている1～3号館から遠いところに位置するので、図書

館の利用者はもっと減っていくのでは無いかと、正直心配をしていました。確かに2013年度は引越し前に較べると少し減少していましたが、2014年度は、12月までの暫定利用者数を比較すると2013年度(4～12月45,815名)より増加していて、2012年度の4月から12月までの利用者数(53,736名)をだいたい回復する数になっています。これは、私が心配していた教室から遠いところに位置するという不便さを乗り越えて、学生達が以前と同様に図書館を利用しているということだと思います。図書館は、もちろん大学院生も利用しています。大学院生にとっては、院生室と図書館は同じ建物内ですので、利用の利便性は大きいと思いますが、実際の利用者数で較べると、総利用者数に占める院生の割合は2.5%、学部学生の利用は84.0%になり、学部学生の占める割合の方がずっと大きくなっています。従って、学部学

生が以前と同じように図書館を利用しているという事になると思います。

この様な数字に表れた利用状況の前進の陰には、図書館事務センターを始めとする事務の皆さんのたゆまぬ努力、教員の皆さんの協力と学生への働きかけ、また、法人の財政的な支援による図書館内の諸設備の充実ということがありました。そして、そうしたことが実現するように2012年から2013年の移転・拡充の先頭で働いて下さった、前図書館長の平野美津子先生のご尽力がありました。皆さんに深く感謝申し上げます。こうした皆さんの努力を引き継いで、本学図書館の利用者数が、順当に延びていって、今後1～2年の間に、例えば2010年度の利用者を越えるようになっていくようにすることが課題だと考えています。

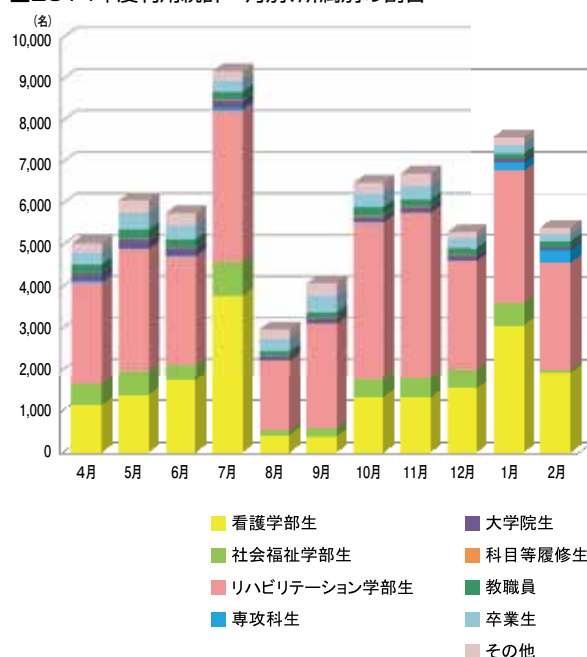
大学図書館の最も重要な役割は、教育・研究に必要な教材・資料・研究情報を提供することです。現在その様な教材・資料・研究情報はインターネットを介して、あるいはDVD等の電子媒体を通して提供される事が多いのも実情です。そうであれば、大学図書館の役割も、自ずとネット環境へのアクセシビリティを保証すること、電子媒体が利用できる環境を整える事だと思います。現在本学図書館では教材として、多くのビデオ資料(VHSテープなど)を持っていますが、本学図書館の良い特徴になっていますが、ビデオ資料はすでに時代遅れの状況にあります。これらの資料をDVDあるいはBlu-ray Discに置き換えていく必要があります。また、研究用に多くの内外の雑誌を購入していますが、これらのうち相当数はネットを介して電子ファイルとして利用可能になっています。こうした資料はネット利用に切り替えて行く事で研究室からの利用も可能になります。ただ、そうすると、図書館の直接利用者数は伸び悩むかも知れませんが、それはそれで良いと思います。さらに、教育や研究に必要な基本的な統計資料なども、現在ではその多くがネットを介したデータベースとして提供されていますので、それらを利用できるようにしていく必要があります。同時にデータベースを簡便に利用できるようなするための利用知識の普及も必要になってきます。図書館としてこうしたことに取り組む事

で、(たとえそれが直ちに目に見える形での利用者数の増加に結びつかないとしても)図書館の役割を果たしていきたいと考えます。

第二は、図書館を地域に開かれた図書館とすることです。以前は、大学図書館は大学だけの図書館でしたが、大学が生涯教育を重要な目標に掲げている現在、また、本学の周りには、多くの医療・福祉関係の施設・機関が存在している現状で、更には、本学がキリスト教教育を目標に掲げている中で、地域のキリスト教関係資料提供の場として、広く皆さんの利用に応えていくことも大切だと考えます。それが、本学の存立の基盤を広げ、地域の中で生かされていく大学を形成する礎になると信じます。

第三には、上に電子化される大学図書館の重要性を書きましたが、一方で、歴史の基本である書かれた物を大切にすることも図書館の重要な使命です。本に囲まれた環境が、人を作り、研究者を作り上げていくことも事実です。ある著名な日本の作家が書いていました、「本は、積んで置くだけでも大切である。」積まれた(あるいは並べられた)本の中に居ることが、私達の静かな思索を深めてくれるということも確かだと思います。ディスプレイに映る様々な変化を追うだけでは無く、じっくりと腰を据えて思索できる場を提供することは、うつろう現代であればこそ図書館の重要な役割だと考えます。

■2014年度利用統計 月別、所属別の割合





私 と 本

社会福祉学部介護福祉学科 教授 中村 京子

図書館報の記事の依頼を受け、改めて私が「本」に対する思いを考えてみました。私はこう見えても子供の頃はよく本を読んでいました。「赤毛のアン」が私のお気に入りでした。紫のカバーが付いた本のシリーズをお小遣いがたまったら1冊1冊を買い揃えて本棚に並べるのが楽しみでした。本というよりきれいな言葉や文章にあこがれていたように思います。アンの真似をして、家の近所の小路や桜の木に名前を付けてアンの世界を共有したり、自分の詩に手作りの「わたしの詩集」等と色鉛筆等で表紙を作って綴っていました。きれいな風景、詩等に自分の世界を作って空想の世界によっていました。

大人になってからいろんな出来事が降りかかるたびに読むものも違ってきました。時代ものも好きでした。細川ガラシャ、武田信玄、斉藤道三、坂本竜馬、「坂の上の雲」の大山巖など人の生き様を表した本を好んで読んでいた時期は、自分の生き方を模索していた時期でした。人間不信になっていた時期には、何とかそれから抜け出たく、戦国時代の本を読みました。その頃の武将は決して腹の中を見せようとせず、限られた言葉に含まれた意味や表情で人の心を探っていました。それからは「言葉からは真実は語られない」事をしりました。また聖書も求めるように読んでいた時期がありました。人を恨みたくないように辛い時期でした。聖書の「ブドウ園の主人が人を雇い、労働時間が違うにも関わらず同じ賃金を与え、雇い主が怒っている人に「なぜ人をうらやむ……あなたは雇われたとき喜んだではないか…」」言った言葉は、人と比較しなければ幸せだ、欲を出すから辛くなる。最初の気持ちに立ち戻れば幸せな気持ちになれるとその時の私を救ってくれました。本とはその時の状況と心境に反映しています。自分に

迷い、悩みがある時や苦しい時に本を求めています。そのような時は何を読んでもどんな言葉でも自分の糧になるものです。

今はいつの頃からか手にするのも本屋で探すのも「専門書」や「専門雑誌」になってしまいました。そして読む前に買ったことで安心するようになってしまいました。

そんな中にも紹介したい本が2冊あります。1冊目は「九八歳の妊娠」下村恵美子著です。まずはタイトルに驚きましたが、内容は宅老所に入所している方たちの日課をつづった手記です。このエッセイも認知症で98歳の老女の想像妊娠でした。恥ずかしそうに「私妊娠しているの」と顔を真っ赤にして打ち明ける場面がとてもかわいらしく、少女のようです。もちろん想像です。でもこの本を読んで98歳の老女の中にも少女が潜んでいることを改めて思われました。若い学生のみなさんぜひ読んでみてください。そして知っておいてください。年老いても心はあなたたちと変わらないのです。もう一冊は「だいじょうぶだよ、ゾウさん」です。これは「ローレンス・ブルギニョン」作の絵本です。年老いたゾウさんと幼いネズミの物語です。毎日仲良く暮らしていたのにある日、ゾウは「もうすぐ遠いゾウの国にいて、もう戻らない」とネズミに告げます。最初はそれを受け入れられなかったネズミでしたが、いくつもの季節がめぐるなか、弱ってきたゾウの世話を一生懸命にするうちにネズミも成長してゾウさんの幸せを考えるようになっていく物語です。家族の死を受け入れ自分のことより相手を思いやる、何が本人の幸せなのかと考えられるようになるプロセスを教えている本です。ぜひ読んでほしい本の一冊です。

私が今このような本を求めているということも老後を迎えようとしている私の心境の表れなのでしょうか。



学生は手記を手し、夢に挑戦する

リハビリテーション学部作業療法学科 教授 小田原 悦子

図書館は人類が集積してきた知恵と経験の宝庫です。受け継がれてきた知恵と世界中からの経験を詰め込んだ書籍やコンピュータは、将来へ勝負をかける若者にとって、戦士に不可欠な武器のようなものであると言っても過言ではないでしょう。その宝から武器を手にした若者は、他の人々の経験に近づき、自分の将来へ踏み出すことができるのです。

私は作業療法の教員という立場で、学生たちが夢にむかって戦いを挑み、よい作業療法士に成長してゆく姿を、時に叱り時に励まし、彼らが人々に寄り添っていける作業療法士になれるように楽しみに眺めています。

入学してきた学生たちは、夢を持っています。作業療法士になって、患者さんや利用者さんを援助するんだと張り切っています。でも、「作業療法士は、病気や障害のある人が、作業を通して、充実した生活を築き、社会に参加するように援助するために、一緒に頑張ります。」と言われても、その人たちがどんな思いで日々を過ごし、どうやって元気になるのかピンときません。何となく、困ったことになった人々が元気になるように援助するのはよいことだと考えています。どうやって力になれるのか不安です。

人は当たり前で暮らしていた生活が突然難しくなると、落ち込んだり、引きこもったりします。作業療法士は、人々がこのような人生の危機から生活を立て直すことを支援します。人々が充実した生活がおくれるように、日常の作業(食事をする、仕事をする、読書をする、散歩をする、料理をする、デートをする、旅行をする、子どもの世話をする、など)ができるように援助したり、環境を調整して、日常生活や社会生活に参加するように援助する仕事です。人体の構造、機能、病気や障害についての知識を吸収し、技

術を学ぶことが必要になりますが、それと同じように、そのような状況にあるときに、人はどのように感じ、経験し、日々を過ごすのか、理解することが重要です。どうやって将来に向かって、生活・人生を切り開いていけるのでしょうか？

私は、夢に向かう学生戦士たちに、病気や障害を乗り越えてきた人々の手記を紹介します。手記は学生たちにとって信頼できる武器になるのでしょうか？

手記には、病気や障害に遭った人々が、それまで当たり前で過ごしてきた日常生活が困難になったつらい経験も、危機を乗り越えていった経験もストレートに述べられています。その人の日々の生活を読みながら、その人の痛みや辛さや絶望、楽しいこと、喜びの瞬間に近づくことが可能になります。手記を通して絶望にいた人が元気に明るく変化していくのに付き合うことが、学生の挑戦を可能にする武器となります。手記を通して、それまで自分から遠いところにあった人の生きる経験を少し身近に感じることができるのです。

学生はクラスに持ち込まれた脳卒中、脊髄損傷、認知症、難病、自閉症などを持った人が書いた手記10冊以上の中から、自分が読もうと思う手記を1冊選びます。何回も内容を憶えるくらいに読み通し、その人の生活史を理解します。どんな病気なのか、症状は何なのか本やインターネットで調べます。病気や障害になった人がどのように感じ、考え、生活するのか、理解は進みます。学生は、この課題のクライマックスである、その人がどのように元気になったかという謎に遭遇します。これは、学生にとって、わくわくした真剣な挑戦になるでしょう。学生はいつか将来の自分の姿、患者さんや利用者さんと一緒に頑張る自分の姿を身近に感じ、将来の夢にグッと近づ

けるのです。

図書館には手記以外にも宝物がまだまだ眠っています。自分の夢のために隠れた宝物を探し出し、しっかり活用して、自分の将来を切り開いていこうではありませんか。

この一冊



本学教員からのお勧めの一冊

(五十音順)

渡辺淳一著 『鈍感力』 集英社



一般に鈍感ということは、否定的な意味として受けとられています。しかし、鈍いという意味をもう少し広く考えていくと、イメージは大分変わってきます。敏感な人は、ナイーブであるが故に深く落ち込みますが、鈍感な人は叱られてもへこたれず、いい意味での鈍さを持っています。それぞれの世界で、成功をおさめた人は、才能はもちろんですが、その底に、いい意味での鈍感力を秘めていると言われています。これから専門職を目指す学生たちには、実習という試練が待っています。この試練を乗り越えるためにも読んでほしい一冊です。

リハビリテーション学部作業療法学科 准教授 伊藤 信寿



堀切辰一著 『布のいのち』 新科学出版社



筆者が日本各地で手にした、およそ明治から昭和初期の庶民の「普段着や野良着たち」「古い布きれや端ぎれ」にまつわる物語である。そして、それを着ていた、庶民の中でも時代の底辺で生きてきた人たちの、暮らしの中の貧しくも今の時代に失われてしまった健やかな「こころ」に思いを寄せ綴った生活の歴史である。その綴りは、さまざまな人たちの「暮らし」「生きざま」を追体験する社会福祉実践の醍醐味に重なる。社会福祉を志す学生やソーシャルワーカーに手にしてもらいたい一冊である。

社会福祉学部社会福祉学科 准教授 川向 雅弘



内田麟太郎文、味戸ケイコ絵
『まねっこでいいから』 瑞雲舎



今虐待、ネグレクト、いじめ、少年犯罪と社会全体が様々な心の問題に直面しています。

先日、新聞の読者欄に「私は、自分の親は嫌いだ。『おまえなんか生まなきゃよかった』と母から言われ続けて育った」という手記を見ました。就学前乳幼児施設でも実はこうした苦しみを抱えている母たちがいます。どうかこの柔らかな命、愛おしい命から目を逸らさないで、もっと見つめて、抱きしめて可愛がってと願わずにはいられません。

そんな時、幼稚園の『お母さん文庫』に『お母さんに読んでほしい絵本』を置いて「愛情と信頼の絆の尊さ」を発信してきました。そんな命の歌が聞こえる絵本です。
(あわせて「かあさんのこころ」「おかあさんになるってどんなこと」もお勧めします。)

社会福祉学部こども教育福祉学科 准教授 鈴木 まき子



加藤諦三著 『大学で何を学ぶか』
ベスト新書 KKベストセラーズ



第一志望でその大学に来ようが、第二志望で来ようが、それは問題でない。たとえ第二志望であっても敗北者などではない。しかし、もし大学を卒業する時、この四年間はすばらしかったと思わなかったら、そのときこそ、青春の敗北者だろう(本文26ページ)。

20年以上も前の春、第一志望に入れず、地元の大学に進学を決めた私は、これでいいのかと悶々とした日々を過ごしていました。その頃手にしたのがこの本でした。「世間が評価する一流大学でなくとも、自分にとっての一流大学にする」、「大学をどう使うかだ」。一度入った大学でがんばってみようと思ったのを覚えています。第一志望でなかった学生さん、晴れて第一志望であった方にもお薦めの一冊です。

看護学部看護学科 准教授 成松 美枝



本多勝一著 『中学生からの作文技術』
朝日新聞出版



文章が上手に書けない。そう思っている人は多いと思います。私もその一人です。上手に書けないのは、学校教育では作文技術をおしえられなかったからだ指摘されています。

早く走るためには適切な練習が必要であるように、良い文章を書くには、留意すべきポイントをふまえ、練習する必要があります。本書ではそのポイントを教えてくれます。言葉の順序、句読点の打ち方、助詞の使い方などを。「中学生から」となっていますが、大学生、社会人こそ読むべき良書だと思います。

リハビリテーション学部理学療法学科 准教授 根地嶋 誠



池上彰著 『学び続ける力』 講談社



学びを深めるためには、メモの取り方、ノートの取り方(事後学修の仕方)が大切になります。池上さんの新聞記者時代の経験や、大学の教員としての経験から、とてもわかりやすく紹介されています。また、講義で身近な出来事など照会しながら、講義を組み立てることも述べられており、教員が講義内容を考える際にも役立つ書籍と思います。また、リベラルアーツについての紹介は、大学の教養教育を考える参考になると思います。

文章表現が、とてもわかりやすく書かれている点も評価できる書籍と考えます。

看護学部看護学科 教授 藤井 徹也

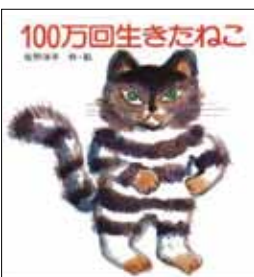


.....

● ● ● ● ●

本学大学院生からのお勧めの一冊

佐野洋子作・絵 『100万回生きたねこ』 講談社



「圧倒的な孤独と不器用な愛情」

それが最初にこの絵本を読んだ時の印象でした。読む人によっても、読む時によっても、それぞれ感じ方が違うと言われるこの絵本は、愛だけでなく、生や死についても改めて考えさせられる作品なのではないかと思います。

この作品は、佐野さんが今の私と同じ30代の時に発表されました。激動の時代に生まれ、幼いころから色々な経験をした佐野さんだからこそ、この作品が生まれたのかもしれませんが。

看護学研究科(博士前期課程) 院生
2014年度図書館サポーター

浅野 合香



メディカルオンラインの利用方法



メディカルオンラインは、医学文献の全文を検索・閲覧できる電子ジャーナルです。
新たに電子書籍の機能が加わりました。

「メディカルオンライン」へのアクセス方法

●メディカルオンラインへアクセスするには、大きく3つの方法があります。

(注)大学内のパソコンからのみ利用できます。

方法1：「メディカルオンライン」データベースで、電子ジャーナルを探します。

1. 大学図書館 HP > 情報検索 > 電子ジャーナル > 「メディカルオンライン」をクリックします。



2. 雑誌のタイトルやキーワード検索などで、読みたい論文を探して、電子ジャーナルにアクセスします。

方法2：「医中誌 Web」の検索結果に表示された、リンクボタン

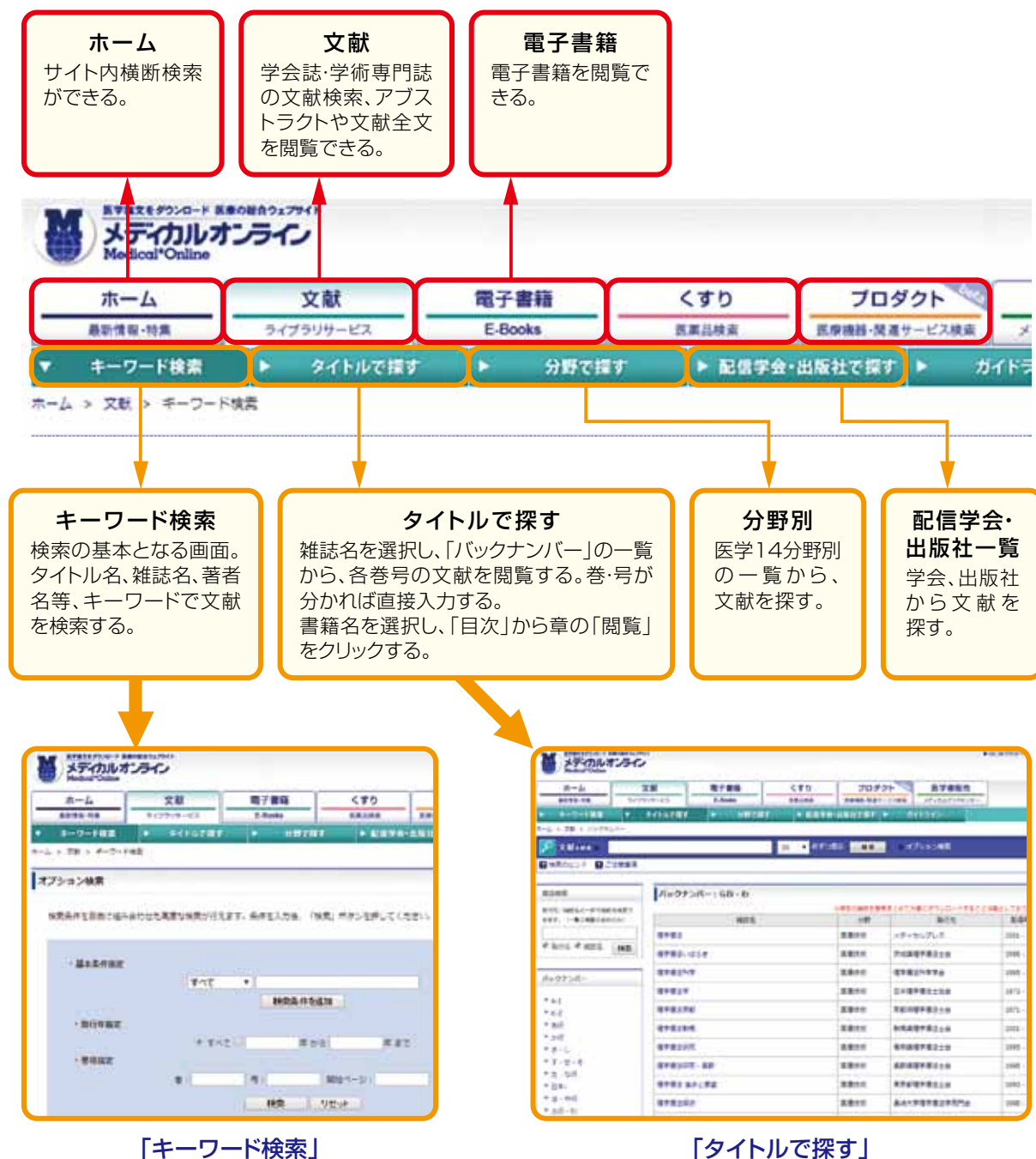


をクリックし、直接電子ジャーナルにアクセスします。

方法3：「蔵書検索 OPAC」の検索結果に表示された、リンクボタン 電子ジャーナルを表示 をクリックし、直接電子ジャーナルにアクセスします。

「メディカルオンライン」での検索方法

●「メディカルオンライン」のポータルページで、いずれかの検索方法を選びます。



■以下、「キーワード検索」を例に、基本的な検索の流れを説明します。

1. 「キーワード検索」タブをクリックします。
2. 「基本条件指定」ボックスに、キーワードを入力します。
※雑誌ではタイトル名、雑誌名、著者名、キーワード等で検索できます。
※電子書籍ではタイトル名、著者名、目次、出版社名等で検索できます。
3. 「検索」ボタンをクリックすると、検索結果が現れます。
4. 検索結果から、希望する文献のリンクをクリックして、「アブストラクト」や「全文」を見ます。

文献の閲覧方法

■文献の検索結果画面(例)

検索結果画面の各リンクを選択すると、「アブストラクト」や「全文」を閲覧できます。



●アブストラクト

アブストラクト(抄録)表示にリンクします。

●全文FAX送信

FAXで全文を受け取ることができます。手続きはカウンターで行いますので、カウンターに依頼してください。

●全文ダウンロード

文献全文をPDFで見たり、ダウンロードをしたりすることができます。

■電子書籍の検索結果画面(例)

検索キーワードが索引項目にヒットすると、該当の章がハイライトします。「閲覧」をクリックすると、その章が開きます。



●閲覧

電子書籍の閲覧・印刷ができます。



●コントローラー

書込み(ペン、付箋)をすることができ、書き込んだ画面を印刷することができます。

利用のルール

※電子ジャーナルの利用にあたっては、供給元の出版社が使用許諾条件を定めています。
どの出版社においても、おおむね以下の事項は禁止されています。

- 機械的な大量のダウンロード、および特定の雑誌を大量にダウンロードすること
- 個人的な研究・教育目的以外の利用
- データを複製、改編すること
- 他者にデータを配布・送信・転売等すること

※使用許諾条件に違反した場合、大学全体の利用制限等のペナルティが科せられますので、ルールを遵守し、利用してください。

News

◆マイライブラリに新しい機能が加わりました！

マイライブラリでできることは以下の通りです。6の「[借りた資料の履歴を見る](#)」が新しい機能です。入学してから現在まで、自分が図書館で借りた図書の履歴が、年度ごとにフォルダへ表示されます。マイライブラリの右上部分「あなたの貸出履歴」または「操作メニュー」の「履歴」「借りた資料」をクリックしてください。

マイライブラリでできること

1. お知らせ(資料の到着や延滞など)を見る
2. 貸出状況を確認する、貸出期間を延長する
3. 貸出中の図書の予約ができる
4. マイフォルダを活用する
5. 図書のリクエストができる
6. [借りた資料の履歴を見る](#)
7. 新着図書・雑誌の情報を受け取る



図書館は公共の場です。マナーを守ってお互い気持ちよく利用しましょう。

図書館報 第13号/発行・聖隷クリストファー大学図書館/2015年4月1日
〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町 3453/TEL:053-439-1416/FAX:053-414-1146
E-mail: cl-library@seirei.ac.jp 図書館ホームページURL: <http://collib.seirei.ac.jp/>